

寄生虫も種の保全を

富山大・横畑助教

寄生虫やダニなど寄生物にも「レッドリスト」が必要。富山大理学部の横畑泰志助教(四四)「寄生虫学」が中心となって全国の研究者でつくる「寄生生物保全ネットワーク」を設立し、絶滅の恐れのある寄生物をリストアップ、種を守る活動を進めている。

レッドリスト作成進める



「寄生生物保全ネットワーク」を設立した横畑泰志助教。右側のパソコン画面に映っているのは寄生生物の1種「富山大」

全国ネットワーク設立

ネットワークは、日本生態学会の自然保護専門委員(寄生生物担当)に就いた横畑助教が今年六月、研究者や学生に呼び掛けてつくった。会員は現在二十一人。

寄生物には、ぎょう虫や回虫など動物の体内にすむ寄生虫のほか、ダニやノミ、細菌も含まれる。病気などの原因になるケースもあり一般には「悪」のイメージが強いが、むしろ腸内の微生物が栄養吸収を助けているように有害でないものも多く、生態系の一部となっている。宿主となる生き物一種に対して三―四種が寄生していると推定されるが、全体の種類や数は、あまりに多いため把握しきれていない。

寄生物レッドリストには現在までに、イリオモテヤマネコなど絶滅の恐れのある動物に寄生する種類を登録した。横畑助教は「寄生物は決して人に好かれる存在ではないが、生物の多様性の多くを担っており、尊重すべき」と話している。

レッドリストのほか、ペットブームなどで外国から人為的に持ち込まれた生物に寄生する外来種についても、日本の生態系を乱す恐れがあるとして「外来寄生生物リスト」に掲載している。